

天保
蠶秘

養蠶重寶記

大全

原田織維文庫

文庫4

660



日本無二養蠶秘密



養蠶はさし方
傳授の書

南向堂先生撰

昭和三年十月二十九日
第一商学部より移管



杯盤の由来は尋るに煩

早稲田大学
図書館蔵書

原田織文庫

人王世代雄畧天皇は神后唐土の常陸國

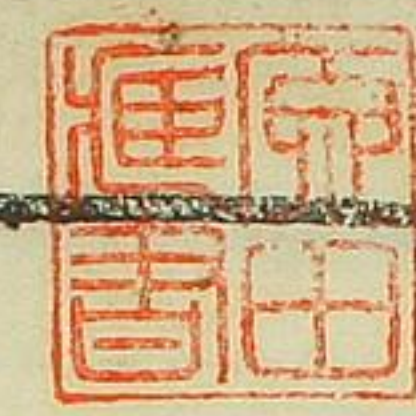
着ふの衣々に習はるる自養蠶の秘法を以て

身より養へぬとん奉湖の湯を以てて養ふも

養ふも養へぬとん奉湖の湯を以てて養ふも

養ふも養へぬとん奉湖の湯を以てて養ふも

養ふも養へぬとん奉湖の湯を以てて養ふも



絹笠大明神



絹笠大明神の御徳を
世に傳へて
御徳を
世に傳へて
御徳を
世に傳へて
御徳を
世に傳へて

目録

- 一 上々の種言函とある事 二丁
- 一 種目方茶あゝ素まの事 三丁
- 一 中種かえす事 四丁
- 一 上種かえす事 五丁
- 一 極上々種かえす事 六丁
- 一 下種かえす事 七丁

- 一 香を記立の事 八丁
- 一 香を記立次第の事 九丁
- 一 香を記立二度体の事 十丁
- 一 同一二度の体より言函とある事 十一丁
- 一 香六七の香より言函とある事 十二丁
- 一 香ちび色次第の事 十三丁
- 一 香死ぐりの事 十四丁

一 口四度の体の事

八丁

一 一度体より吉凶とある事

口丁

一 二度の体より吉凶とある事

口丁

一 三度七の体よりある事

九丁

一 四度十の体よりある事

口丁

一 五度向より空場傳授の事

十丁

一 居宅方角の品の事

口丁

一 傳授ある事

十一丁

一 種の見え方の事

口丁

一 養をよむ立時候の事

十二丁

一 指を記おぬ事

口丁

一 式番体の事

十三丁

一 素くをせやう事

口丁

一 体小素と免の事

口丁

- 一 香を祀中寮入るる事 四丁
- 一 香ハカを焼く事 五丁
- 一 素屋初らき方 二ツ体 四丁
- 一 素屋とち素屋の事 四丁
- 一 素屋を花舟体 四丁
- 一 舟体 五丁
- 一 舟体 素屋 六丁
- 一 舟体 素屋 七丁

養神重寶記

一 舟にづきの品人 素屋記 あり

一 舟にづきの品人 素屋記 あり

一 舟にづきの品人 素屋記 あり

一 舟にづきの品人 素屋記 あり

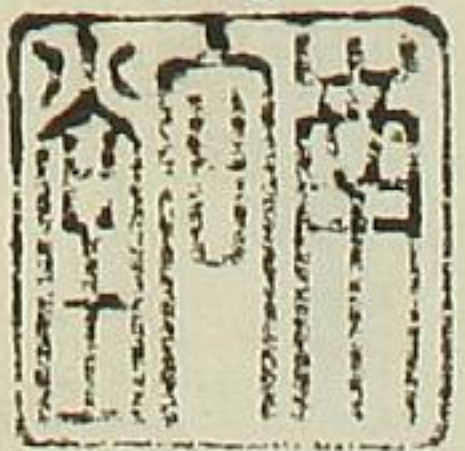
一 舟にづきの品人 素屋記 あり

信州小縣郡上田在まゝ

平

信州小縣郡上田在まゝ

南河清重



元禄ありたりるに昔日昔方より
まゝ家なれは是香ありぬら
なり

一 信州小縣郡上田在まゝ
平

ん...
...
...
...
...
...

一...
...
...

...
...
...

種...
...
...
...
...

一...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...

お種小粒あて志まのゆへへちまふふとち種
りあなり

一 中種のりお種を敷いたくは十の種を
ちまぬ式人よりゆへへちまぬ名年節の
せふぶんまにゆへへ種より一は中種のり
一 上種より種を敷いたくは其れを
母三人よりゆへへちまぬ名年節のり

種まありよぬとよ種より

一 極よ種より元種をあたちちのゆへへ余
るけりお種を敷いたくは十の種を
ちまぬ式人よりゆへへちまぬ名年節の
りあなり

ふんふんは梅のつぼみのつぼみ
一 ちく種はききふんふん
一切を他よりききふんふん
香園のおんききふんふん
には入るふんふん
ふんふんはききふんふん

一 香園のおんききふんふん
ちく種はききふんふん
一切を他よりききふんふん
香園のおんききふんふん
には入るふんふん
ふんふんはききふんふん

一 香園のおんききふんふん
ちく種はききふんふん
一切を他よりききふんふん
香園のおんききふんふん
には入るふんふん
ふんふんはききふんふん

一 此等は、今よりも、
よほど、
よほど、

一 此等は、今よりも、
よほど、
よほど、
よほど、

此等、
自然、
なり

一 此等、
よほど、
よほど、
よほど、

一 春にちる色あけのまもははるま七八ふに
あはる事けあはるに伊度の屋すのみ
いぬいぬくせの月あはるたさゆえ
ちり

一 春あはるまもははるまゆめあはる
るけあはるのまも中はるまも
是の色春の月あはるたさゆえあり
たさゆえあり

一 伊度の屋すのまもははるまゆめあはる
まもあはるまもははるまゆめあはる
ちりひるまは伊度の屋すのまもあはる
ぬぐせの北風あはるあはる風あはる
まもあはるまもあはるまもあはる
事あり

一 庭屋すゝむらゝきき始〜し〜あ
らら〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
のあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
す〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

一 庭屋の庭すゝむらゝきき始〜し〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
く〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
た〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
母のく〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

一 庭屋すゝむらゝきき始〜し〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

ゆく自然のあしりさき

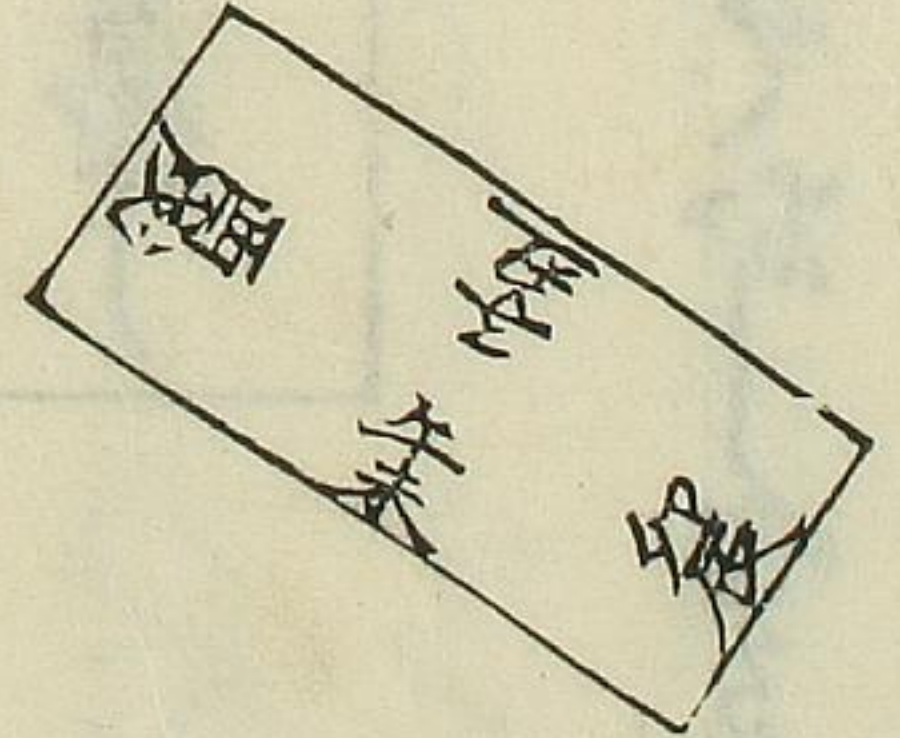
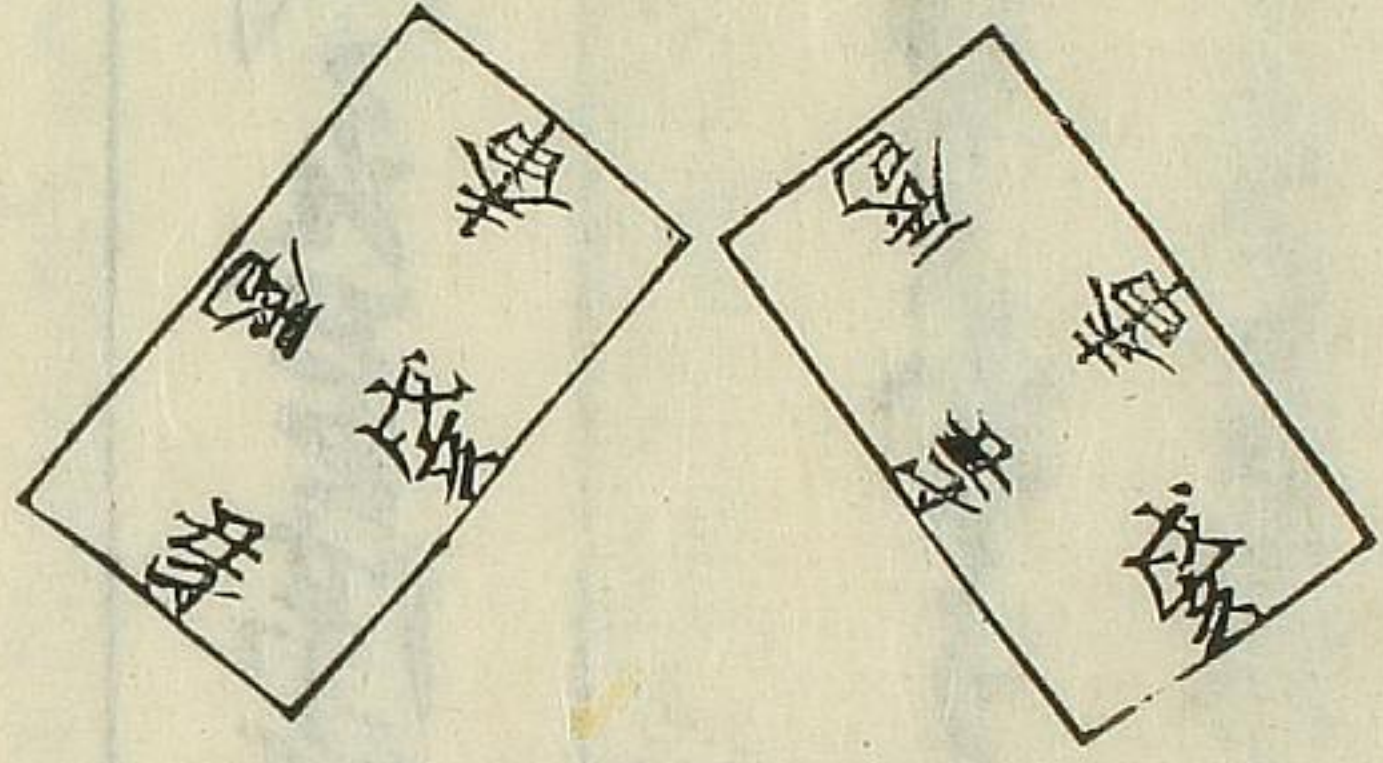
一 登十のあしり「あしり」は「あしり」の
ちのり「あしり」は「あしり」の
のあしり「あしり」は「あしり」の
一 「あしり」は「あしり」の
のあしり「あしり」は「あしり」の

登十のあしり「あしり」は「あしり」の

登十のあしり「あしり」は「あしり」の
ちのり「あしり」は「あしり」の
のあしり「あしり」は「あしり」の
一 「あしり」は「あしり」の
のあしり「あしり」は「あしり」の

居宅の方角の号

んあり世の中をあらわしたるにけ度改えん
 といふ差おしやん



男
 蝶

女
 蝶



種 *Shimizu* の 種

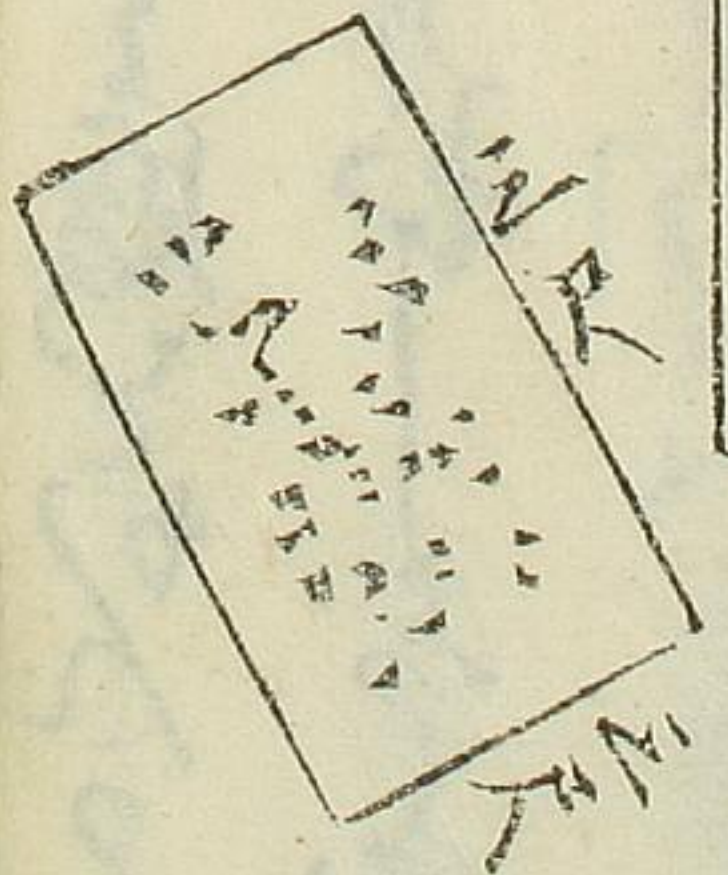
一 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
今更には種を救の目か *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
能く *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
な *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種

一 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
素の *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
Shimizu の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
Shimizu の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
な *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
其 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種
よ *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種 *Shimizu* の 種

宿は...の...の...
 武...
 ...

種を教を...の率

...
 ...



武...回



- 一 素く...の...の...
- 一 ...の...の...の...
- 一 ...の...の...の...
- 一 ...の...の...の...
- 一 ...の...の...の...

一 度の体

一	度
一	度
一	度
一	度
一	度
一	度
一	度
一	度
一	度
一	度

一度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

一 度の体

二ッ登すこも電ここの事

武度の体

一 素びひいふま中森くれいふふ
 志せの屋いこむる業あしくとせだ
 二ッ登すこも電ここの事

一 素びひいふま中森くれいふふ
 志せの屋いこむる業あしくとせだ
 二ッ登すこも電ここの事
 一 素びひいふま中森くれいふふ
 志せの屋いこむる業あしくとせだ
 二ッ登すこも電ここの事
 一 素びひいふま中森くれいふふ
 志せの屋いこむる業あしくとせだ
 二ッ登すこも電ここの事

二度の体

一 物を度すこゝろ中葉とられ八五ふ

知るる世の度ららなる葉を「道」

一 吾を度すこの通る毎日吾を度すは「道」

一 舟を度すこゝろ度めさるる道三度

度き度葉らるる度——度めさるるの

世の度大せのちのりく度らあたるの

ちのちのちの度すこゝろ葉たたるに

度度すこゝろ葉らるる百枚の心

しつこくは是れはたゞの死を待たせんとすは其のまゝとて
とらんやう後世に傳へんことをしよとのまゝ傳へば可ら
と能く心算を申す所ののまゝとて秘傳を授け
多年にてもそのまゝに傳へたる人のおぼしめし
牛馬の如く扱はれざることを願ふは其のまゝとて
なりて愛ある所にて道とても摘みたるおぼしめし
口傳の如きことあり

天保十一年庚子正月改板

信州小縣郡上田在

下イ夕邑

中村彌七郎謹白

早稲田大学図書館

011488479603